

2025 Autumn

母校通信

"Mastery for Service"

156号

「巻頭企画」

理系の最前線
神戸三田キャンパス

読者プレゼントのお知らせ！

詳細・応募は本誌1ページ目をご覧ください



関西学院同窓会

理系の最前線 神戸三田キャンパス



進化が止まらない「KSC」を見に来ませんか
起業も研究も失敗もできるキャンパスへ

KSCに学生寮ができた！
やりたいことに没頭できる「創新寮」

これまでKSCには学生寮がなく、特に実験や研究が長引く理系学生から設置を望む声が多く寄せられていた。卒業生の中にも通学や時間のやりくりに苦労した人も少なくないだろう。そんな中、キャンパスから徒歩5分という抜群の立地に300人規模の寮が開設されたのだ。

寮生は通学時間を気にせず、自由な時間をより多く確保でき、24時間いつでも安心して研究や実験に没頭できる環境が整った。「研究に専念するもよし、起業するもよし、社会活動するもよし。思いきり自分のやりたいことに挑戦してほしい」と語るのはKSCの活性化に尽力してきた副学長の総合政策学部・古川教授だ。

創新寮には、専用のカフェテリア(食堂)、共同リビング、シェアキッチンに加え、シアタールーム、ダンスルームも完備し、寮生同士の交流を促す工夫が詰まっている。全国から集まってくる学生が気軽に新生活を始



学生寮は4棟。男子寮2棟、女子寮1棟に加え、フロアごとに男女別となる混合寮も1棟。24時間出入り自由

められるように、個室には家具も備えつけられている。

技術も、ひらめきも
ここから起業が始まる

この創新寮に隣接するようにして設置されているのが、インキュベーション施設である「Spark Base」だ。ここでは、半年間にわたって起業を学ぶ「起業塾」をはじめ、学生の起業を支援する実践的なプログラムが展開されている。

これまで「起業塾」に参加していたのは、課題解決に強い関心を持つ総合政策学部の学生が中心だった。しかし、寮と同じ敷地内に起業支援の拠点ができたことで、理系学生も起業がぐっと身近な選択肢になりつつある。

「たとえば、総合政策学部の学生が新しい日本酒の販売戦略を思いついても、製造の知識がない。そこに理系学生が、この酵母技術が使える」と加われば、実現性のあるビジネスになります。逆に、理系の研究

に対して、総合政策の学生が社会実装の視点を加えることで全く新しいビジネスが生まれる可能性も広がります」と古川教授。「これまで起業家教育をしても、机上の学びにとどまりがちでした。商品開発までできたとしても、販売の場まではなかった。でも、「Spark Base」内のプ

総合政策学部から始まった神戸三田キャンパス(KSC)。2021年度の理系4学部の設置を経て大きく進化し、いまや「理系の最前線」ともいえる学びの拠点になっています。さらに今年、KSC近接地にその進化を象徴する新たな施設「C・ビレッジ」が新設されました。300人規模の「学生寮」、学生の起業を支援する「インキュベーション施設」、さらには「商業施設(フィットネスジム)」を含む複合施設です。今年、30周年を迎える最新のKSCの姿をお届けします。

「理系を学ぶならKSC」
志願者数が2倍、院進学率は4割に

今年度のKSCの志願者数は2020年度と比べておよそ2倍に増加した。この急成長の背景には、KSCの再編がある。「理系を学ぶならKSC」というイメージが受験生の間で着実に定着してきている」と語るのは、KSC事務室の永嶋室長。

1995年に総合政策学部からスタートしたKSCは、2001年に理学部が西宮上ヶ原キャンパスから移転(翌年には「理工学部」に名称変更)した。そして、2021年その理工学部が、「理学部」「工学部」「生命環境学部」、総合政策学部より独立した「建築学部」の4つの学部再編された。現在は、総合政策学部と合わせて合計5学部・約6400人の学生が学ぶ一大拠点となっている。

「この再編は、理系の教育・研究の質を高め、より広がりのある展開を目指すKSCの長期戦略に基づいたもの」と話すのは生

ロジェクトスペースを活用すれば、アンテナショップを出して実際に販売することもできます(永嶋室長)

将来的には、学生がC・ビレッジ内に自分たちのオフィスを構えて実際に事業をスタートさせる。そんな未来も可能だという。

地域とつながる、社会とつながる、
そして卒業生とも

C・ビレッジは、地域の人にも開かれた場だ。商業施設には、フィットネスジムが入っている。「Spark Base」のカフェやラウンジは誰でも利用でき、無料会員になれば、ミーティングスペースも使える。有料でコワーキングスペースやレンタルオフィスの利用も可能だ。また、関学生だけでなく、起業に興味・関心がある一般の人に向けたセミナーや交流イベント、相談会なども実施をしていく予定という。

これまでKSC周辺には、学生と地域の人々が自然に交わる場所がほとんどなかっただけに、待望のつながりの場ともいえる。永嶋室長は「KSCには、地域課題の解決に貢献したいと考える学生が多い。C・ビレッジはそうした想いを形にできる舞台になるでしょう」と期待を込める。

とはいえ、起業支援にはまだ課題もある。「学生の起業志向は年々高まっていますが、アイデア段階で止まってしまうケースも少なくありません。教職員による支援に加え、実際に起業を経験した卒業生のサポートが欠かせません。すでに学生のメンターとして起業塾に関わってくれている卒業生もいます。今後はイベントへの登壇、セミナーでのゲストスピーカーなど、より多様な関わり



開放感あふれるC・ビレッジにて
右から、生命環境学部・橋本秀樹教授(学部長)、
総合政策学部・古川靖洋教授(副学長)、
KSC事務室・永嶋恒治室長

命環境学部長 橋本教授。

この4年間、各学部の「らしさ」を打ち出して、研究指導体制の整備に加え、学生の主体性や探究心を育むカリキュラムを整えてきた。その結果、当初の志願者数の倍増につながり、さらには大学院進学率も再編前の30%台前半から42%に上昇した。

「授業の履修動機の記述や課題レポートからも、学生たちの学びに向かう意欲の変化を感じています。分野の枠を越え挑戦しようとする学生が増えているのは、KSCならではのですね(橋本教授)」

キャンパスの5分先に未来がある
「C・ビレッジ」ってどんなところ？

そんな理系の最前線のキャンパスに今年新設されたのが「C・ビレッジ (KSC Co-Creation Village)」だ。正門から徒歩5分。「学生寮(創新寮)」「インキュベーション施設(Spark Base)」とフィットネスジムの入る「商業施設」の3つの施設からなるこの複合施設は、学生の起業や地域・企業との連携を後押しする、KSCの未来を象徴する新たな拠点だ。



Spark Base
1階にカフェやオープンスペースがあり、3Dプリンターが使えるクラフトスタジオや映像撮影ができるBRスタジオも。2階はレンタルオフィスやコワーキングスペースとなる

り方をお願いしていきたい(永嶋室長)

成功よりも、失敗から学べ

「社会に出る前の学生には、たくさん失敗してほしい。一緒に失敗できるメンバーがいて、支えあう。そのプロセスこそ人生の糧になる学びがあると思っています」と永嶋室長が語れば、橋本教授も「かつて研究者は個人プレーが中心でしたが、今はチームで解決する時代。緻密な作業が得意な学生もいれば、ひらめきに長けた学生などそれぞれ。うまく相乗効果が出ることもあるが、お互いがかみ合わず落ち込むことも多いもの。でも、そうした経験そのものが、協働を学ぶ機会なのです」と続ける。

他大学が教員の研究の社会実装に重きを置く中で、KSCはあえて、学生自身の研究・学びそのものを社会につなげ、その成長を支援しようとしている。

「自宅と大学をただ往復するだけでなく、自分の未来を見据えて行動できる学生を育てたい。そんな願いを込めて、私たちはこのC・ビレッジを創っています(古川教授)」

どの学部で何が学べる？ 5つの学びの「今」

総合政策学部 世界の課題を自分ごとに

英語教育や国際機関との連携が伝統的に強い総合政策学部では、自然災害や貧困、国際紛争など、地球規模の課題に対して、PBL（課題解決型学習）を通じた実践的な学びが非常に多い。「学生が1年間スペースを借りて学びを深めるアカデミックコモンズの利用も活発で、総合政策学部の学生はPBLが身についていますね」と古川教授。

理学部 宇宙の謎に迫る

再編で新設された物理・宇宙学科では、宇宙のはじまりに迫る理論から、最新の天体観測技術まで幅広く学べる。「空を見上げるのが好き」という好奇心を持つ学生や、宇宙の誕生に関わる暗黒物質の理論解析に打ち込む学生もいる。

工学部 技術の融合で未来を創る

AI、ロボティクス、電気、機械など分野をまたいで学べるのが工学部の魅力。柔軟なカリキュラムによって自分の関心を深めながら、異分野の知識とつなげていく学びが進む。AIとロボット技術を融合させた「自律移動ロボット」を開発する学生チームも。

生命環境学部 地球規模の課題に挑む

気候変動や環境保全といった課題を自分ごととしてとらえ研究を進めるのが生命環境学部。人工光合成の研究に取り組む学生は、「光合成をする微生物の色素を使って、太陽エネルギーを電気や燃料に変えられるかもしれない」と、目を輝かせながら語る。

建築学部 人の暮らしと街の未来を描く

建築学部では、建物を設計するだけではない。都市の文化や人の暮らしをどう支えるかといった視点から、「まちづくり」そのものを学びのフィールドとする地域連携プロジェクトが活発だ。例えば、朝来市では、城跡観光に依存しない地域づくりをめざして、空き家活用の提案を学生らが進めており、持続可能な観光やコミュニティ再生の一翼を担っている。



「Be a Borderless Innovator（境界を越える革新者たれ）」これは2021年の再編時に掲げられたKSCの新コンセプトだ。理系と文系、学問の領域、教職員と学生、大学と社会……あらゆる境界を越えて、キャンパス全体でイノベーションを起こすことを目指している。こうした分野を越えた挑戦が広がる中で、KSCでは学びの場も教室にとどまらない。

キャンパスでキャンプ!? KSCでしかない日常体験

広大な敷地と豊かな自然を活かしたキャンパスならではのユニークな取り組みが「Camping Campus」だ。なんと、キャンパス内でテントを張ってキャンプ活動が行われている。いまや、KSCの名物風景といえるだろう。

もう一つ、KSCの名物風景といえば、「マイボトル運動」だ。学生が考案したオリジナルボトルや自身のボトルを持参すると、無料でコーヒーやお茶が飲める。SDGs活動の一環としてすっかり定着している。この活動が広がったことで、なんと年間10万本以上のペットボトルの削減を達成。現在では全体の約7割の学生がマイボトル



受け継がれる「仁田(にった)イズム」

このように、海外における実践もまた、専門を越えた視点や、異なる文化・価値観との出会いによって学びを深める好機となっている。

実は、こうした分野を越えた学びの姿勢は今に始まったことではない。「仁田イズムの継承ともいえます」と語るのは、橋本教授。仁田勇教授は、関学理学部の創立に尽力し、初代理学部長を務めた世界的にも有名な物理化学者。橋本教授もその教えを授かった一人だ。「当時の理学部在学中、私は化学を専攻していましたが、物理の授業も学位を修得できるほどたくさん履修させてもらいました。自由に幅広く学べと繰り返し言われ、いろいろな先生方と何度も議論を交わす中で、多様な視点を得られたと

たという。参加した学生からは、「みんなでご飯を作って食べて、自然と打ち解けられた」「キャンパスで非日常な体験ができるのがうれしい」「開放感があつて、気持ちいい」といった声が多数寄せられる。仲間と自然に交流が広がり、KSCへの愛着を感じる日常の「コマ」となっているのがうかがえる。今後はキャンパス内のエコファームで収穫された作物とコラボしたプログラムも検討中とのこと。教室を飛び出し、世代・立場も越えて、日常から一歩踏み出したKSCならではの楽しみが広がる。

マイボトル運動で ペットボトル削減10万本超

さらに、KSCでは実践的な海外プログラムが数多く展開されている。すべてPBL（課題解決型学習）形式で与えられた課題をこなすのではなく、自ら課題を見つけ、考え、行動するスタイルが特徴だ。

インドネシアでダイビング実習!? 海外でリアルな学びができるKSC

さらに、KSCでは実践的な海外プログラムが数多く展開されている。すべてPBL（課題解決型学習）形式で与えられた課題をこなすのではなく、自ら課題を見つけ、考え、行動するスタイルが特徴だ。

中でも注目なのが、生命環境学部の「海洋フィールド実習」。事前の講義で環境保全や安全管理を学んだ後、インドネシアの離島でスキューバダイビングの国際ライセンスを取得し、サンゴ礁の調査や人工サンゴの植え付けに挑戦する。「海に潜った瞬間、世界が変わった気がした」と語る学生もいるほど、海の豊かさと脆さを体感することができきるプログラムだ。「参加者の9割以上が主

思っています」と振り返る。

分野を超えて自由に学ぶ文化。教員と学生が近い距離で語り合つて切磋琢磨する土壌。これらは今も、脈々とKSCにも息づいている。

「遠い」は過去の話 今こそ、KSCへ行こう

ところで、これまで「遠くて不便」と思われてきたKSCだが、今ではアクセス面も大きく改善しているのは、ご存じだろうか。

大阪・三宮・新大阪からの直通バスが増便され、都心部から1時間弱でキャンパスに着く。学生たちは、バスの通学時間を勉強にあてたり、音楽を聴いてリラクセスしたりと有効に活用しており、「気づいたらもう着いている」と便利さを実感する声も増えている。



を持参するなど、環境への高い意識が根づいている。

実は「Camping Campus」も「マイボトル運動」も、学生団体が主体となつて事務室と連携しながら運営に当たっているという。まさにキャンパスが学びのフィールドとなっている。

体的に学ぶ姿勢が身についたと感じており、卒業後は国際協力や環境NGOなどに進む学生も多いんですよ」と橋本教授。

工学部では、アメリカ・シリコンバレーを訪れ、AIや起業文化をテーマに企業を見学。理学部では、ヨーロッパの研究機関と連携し、大学院生が現地の実験に参加し、成果を国際学会で発表する機会もある。建築学部では、韓国やマレーシアの大学との交流が活発で、各国の学生とチームを組み、異文化を前提とした共同設計演習にも取り組める。

また、海外実習の草分け的存在ともいえるのが総合政策学部。国際ボランティア、国連ユースボランティアなど、国際機関や現地NPOなど社会課題を解決する最前線に身を置く実習が豊富に揃っている。これらは、単位としても認定され、学業との両立も可能だ。

KSCで得られる海外経験は、語学や留学といった枠を超え、世界の現場でリアルな課題に向き合うことができるのだ。

「こうした経験は、学生の価値観や将来設計にも大きな影響を与えています」と古川教授。



「都市部の大学でも、通学に電車を乗り継いで1時間かかることは珍しくありません。それが、バスに座つて1時間弱で自然豊かなキャンパスに到着できるアクセスは、むしろ強みになる」と古川教授は語る。

取材を終えて

この日、私も大阪から直通バスで神戸三田キャンパスを訪れました。あいにくの雨天でしたが、乗り換えのないスムーズな移動で、想像していたよりずっと身近に感じられました。

現在、社会のあらゆる分野で、起業家精神やイノベーションへの意識が高まっています。新たに誕生した「C・ビレッジ」は、学生が挑戦と失敗を恐れずに実践的な経験を積める場として、大きな可能性を感じさせるものでした。特に、勉学や研究に集中できる環境の充実ぶりは目を見張るものがあり、主体的に学びたいという意欲を持つ学生たちにとって、非常に恵まれた環境が整っていると実感しました。

そして何より、そこには卒業生が関わる余地が数多くあります。KSCの今を知り、再びつながることで、私たち自身も新たな気づきや貢献の機会を得られるのではないかと感じています。

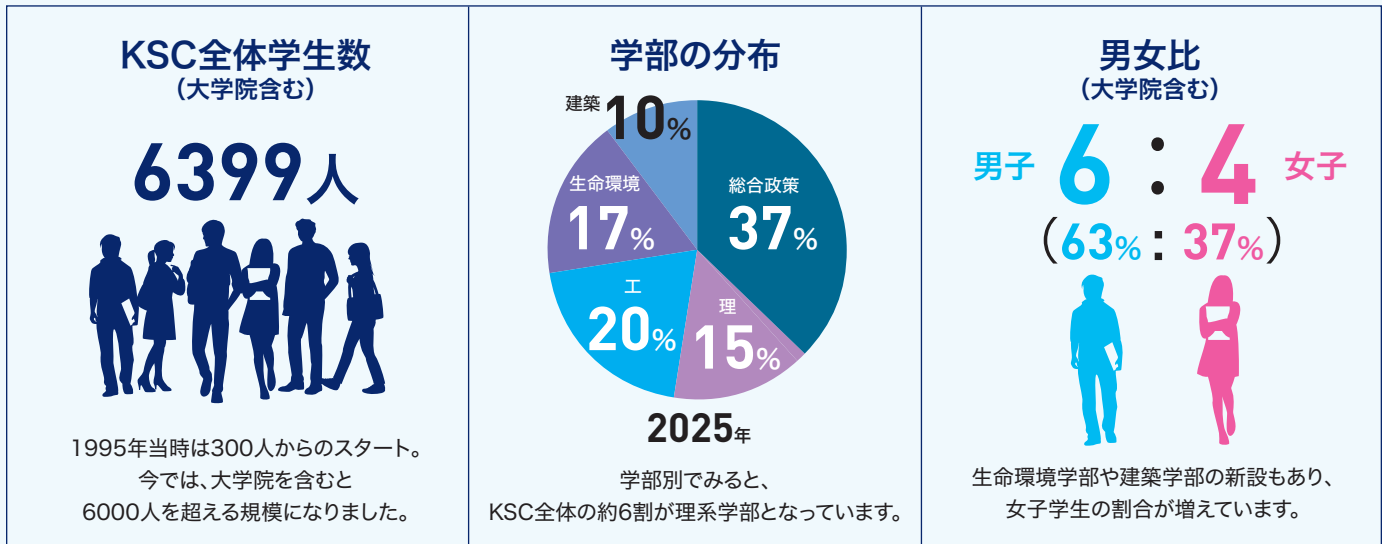
この機会に、ぜひ多くの卒業生に足を運んでいただければと思います。

編集委員長 梨木 祐亮

KSC特設サイト▼

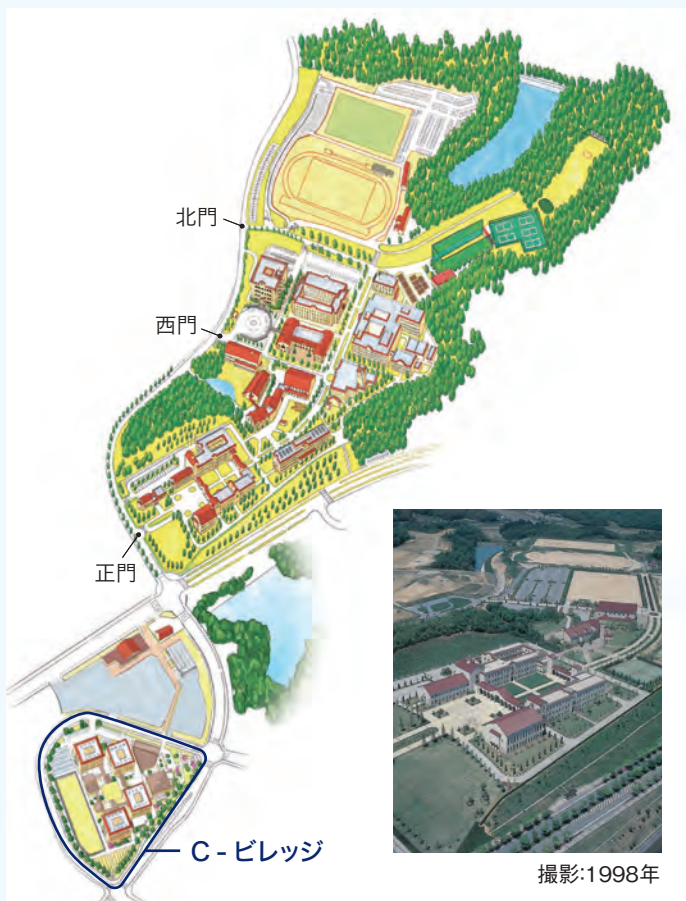


数字でみるKSCの今



(いずれも2025年5月現在)

神戸三田キャンパスマップ



(2025年4月1日現在)

アクセス改善

大阪梅田から最速57分、新大阪から最速60分、
三宮から最速48分の直通バスを運行

姫路、京都・大津、堺・泉佐野、奈良から
1時間30分以内で通学可能

必ず座れて、乗り換えなし。
Wi-Fiや電源コンセント利用もOK(一部除く)



神戸三田キャンパス(KSC)の沿革

- 1995年4月** KSC開設 総合政策学部・1学部
- 2001年9月** 理学部がKSCに移転
- 2002年4月** 理学部から理工学部・4学科に名称変更・改編
総合政策学部・2学科に改編
- 2009年4月** 総合政策学部を4学科、理工学部を6学科に再編
- 2015年4月** 理工学部を9学科に再編

- 2019年** KSCの新しいコンセプト
“Be a Borderless Innovator”提唱
- 2021年4月** 理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の
理系4学部と総合政策学部の5学部体制に
- 2025年4月** KSC開設30周年
KSC C - ビレッジ供用開始

硬式野球部

劇的なサヨナラ勝ちだ！

劇的な勝利を収めた。序盤から互いに点を取り合い、白熱した接戦となった今試合。10-9で運命の最終回を迎えた。会場の緊張が走り、声援が大きく響く中、関学が見事サヨナラ勝ちに成功。「4年生全員の執念が見えた試合だった」と深田元貴主将(法4)は振り返る。苦楽をともにしてきた仲間とつかんだ価値ある勝利。その歓喜と感動は、忘れ得ぬ記憶となったに違いない。



逆転勝利を喜ぶ選手たち

第48回総合関関戦戦績紹介

日程	部活動名	関学	関大
2/18~23	スキー競技部	○	×
4/5	ボクシング部	○	×
4/13	陸上競技部	×	○
4/26	アイスホッケー部	○	×
4/27	水上競技部・競泳パート	○	×
5/4	ラグビー部	○	×
〃	馬術部	○	×
5/18	洋弓部	○	×
5/25	アメリカンフットボール部	○	×
5/31	サッカー部男子	○	×
〃	自動車部	○	×
5/31~6/1	航空部	-	-
〃	ヨット部	-	-
6/1	卓球部	○	×
〃	硬式野球部	○	×
6/2	バドミントン部	○	×
6/7	庭球部	×	○
〃	バレーボール部	×	○
〃	レスリング部	○	×
〃	柔道部	×	○
6/8	ワンダーフォーゲル部	-	-
〃	陸上ホッケー部	○	×
〃	準硬式野球部	○	×
〃	体操部	×	○
〃	スケート部	○	×
〃	拳法部	×	○
〃	フェンシング部	○	×
〃	重量挙げ部	○	×
6/9	ゴルフ部	○	×
6/11	バスケットボール部	○	×
6/14	ソフトテニス部	×	○
〃	射撃部	×	○
〃	相撲部	×	○
6/14~15	弓道部	○	×
6/15	ハンドボール部	○	×
〃	剣道部	○	×
〃	空手道部	×	○
〃	ボート部	○	×
〃	合気道部	-	-
〃	ラクロス部	○	×
総合成績		25	10

※ラクロス部男女はエキシビジョンマッチのため、勝敗には含まれません。

バスケットボール部

仲間の応援を力に変えた！

今年はホームで開催され、多くの観客が会場に駆けつけた。最初に行われた女子は、幸先の良いスタートを切る。最後まで流れを譲ることなく、84-60で勝利。「応援を力に変え、勝つことができた」とC前田心咲主将(社4)は語った。一方男子は、一歩リードを許す展開に。何とか食らいつくも、58-72で惜しくも敗北。しかし総合結果では関学に軍配が上がり、見事勝利を収めた。



シュートを構える、前田心咲主将

ハンドボール部

熱い闘志で白星を獲得！

男女ともに勝利を手にした。女子は拮抗(きっこう)した展開が続く、試合時間残り13分で同点に追いつかれる。しかし勝負所での意地を見せ、25-24の僅差で勝利。一方、男子はリーグ戦にて関大に敗北を喫していた。山内(経1)の活躍によりリードを広げ、39-27で雪辱を果たす。「チームで練ってきた対策が勝利につながった」と両主将は振り返り、安堵の表情を見せた。



シュートを決める、奥田なつひ主将(商4)

ボクシング部

新星の活躍光り 雪辱果たす！

3年ぶりの勝利だ。ボクシング部は前哨戦にて、5-4で白星をつかむ。「自分のペースで戦えた」。ライトフライ級に出場した松木亮太主将(商4)は笑顔で試合を振り返る。オープン戦で全選手が快勝しチームに勢いをもたらすと、本戦でも熱い戦いを繰り広げた。フライ級・井ノ上(商1)は、レフリーストップコンテスト勝ちを決め、最優秀選手賞に選出。新戦力の活躍も光り、今後にも期待がかかる。



選手たちは記念撮影に応じた

第48回

総合関関戦

KWANSEI×KAISERS
2025 2.18・6.15

総合関関戦とは、1978年から続く関西大学とのスポーツ対抗戦。両校の交流を深めることを目的として、45年以上にわたって行われてきた。今年度は「翠耀」をスローガンとして掲げ、関西学院大学で開催。最終結果は25勝10敗3分となり、本学が2連覇を達成した。今回は、数ある試合の中でも劇的な勝利を収めた6部活を紹介する。

スローガン『翠耀』

第48回総合関関戦のスローガンである翠耀(すいよう)には、「体育会員の息を飲むようなパフォーマンスの美しさと迫力、自信に満ちた堂々たる姿」が表現されている。両校の学生が誇りと自信を胸に、華麗な「翠耀」の舞台を体現できるよう、このスローガンを選定した。



アイスホッケー部

35年振り悲願の勝利！

35年ぶりの勝利を飾り、快挙を成し遂げた。昨年と同じく、延長戦に持ち込む接戦となった関関戦。白熱した戦いが続くも、FW岡田(文3)の渾身の一打で勝利が決まった。多くの観客を前に、DF五月女響主将(人4)は「たくさんの応援が結果につながった」と語る。新たな歴史の1ページを刻んだ彼ら。歓喜の余韻を胸に、これからも快進撃を見せてくれるに違いない。

士気を高める、五月女響主将



サッカー部男子

3-1の快勝を収めた！

2年連続で引き分けに終わっていた因縁の一戦。前半22分にMF篠原(商4)が先制するも、後半32分に同点に追いつかれる。しかし、その直後にDF西田(商4)が逆転弾、終了間際にはFW小西春(法4)が追加点を挙げ、見事3-1で快勝。MF三宅凌太郎主将(法4)は「大事な試合で4年生がチームを引っ張ってくれた」と語る。最上級生の鮮やかな3ゴールで、互角の攻防に終止符を打ってみせた。



得点后、喜びを見せる篠原

KG ATHLETICS

2025年度の関学体育会も各部が全力を尽くし、数々の熱戦を繰り広げました。
その中でもひとときわ輝いた9部の戦績をご紹介します。

合気道部

6/1



第45回関西学生合気道競技大会に出場。乱取り競技団体で、男女ともに優勝を果たす快挙を成し遂げた。演武競技では4部門で1位を獲得。強さを証明し、関西にその名を轟かせた。

弓道部女子

5/31~6/1



第69回関西学生弓道選手権大会にてBチームが準優勝を果たす。高い中率と団結力を発揮し、次の舞台である全日本インカレにつながる結果となった。

自動車部

6/15



令和7年度第1回全関西学生ジムカーナ選手権大会にて、男女ともに団体成績1位を獲得。また男子の第3走者である栗野（総政3）は、個人成績においても首位に輝いた。

ソフトテニス部男子

6/7.8



第45回全日本大学王座決定戦にて第3位に。高い実力と抜群のチームワークを武器に、強敵相手にも見事勝利。昨年に続き、全国の舞台でも存在感を放った。

卓球部女子

5/3~6.10.11



令和7年度関西学生卓球春季リーグ戦にて、女子団体が見事3位に入賞。2019年のリーグ戦春秋連覇以来となる表彰台に振り返り咲いた。

バスケットボール部女子

4/26~5/6



第46回全関西女子学生バスケットボール選手権大会にて、創部初の優勝を果たす。チーム全員で丸となり、つかみ取った悲願の勝利だった。

バレーボール部女子

6/26~29



2025年度第51回西日本バレーボール大学女子選手権大会にて、3位入賞を達成。強敵相手にも果敢に立ち向かい、全員で勝利をつかみ取った。

フェンシング部女子

4/12~5/11



2025年度関西学生フェンシングリーグ戦にて女子が4連覇を達成。サーブル種目は創部初の優勝を手にし、快挙を成し遂げた。

陸上競技部

6/5~8



第94回日本学生陸上競技対校選手権大会にて、男子4×400mリレーを3着でフィニッシュ。関西制覇に続く全国3位を成し遂げ、選手たちは喜びを見せた。

◆ 関学体育会のすべてはここから ◆

〈ホームページ〉

関学体育会の試合速報を通し、母校の「今」をご覧ください。また、過去の試合結果や主将のコメントや、企画インタビューなど、数多くのコンテンツをご用意しております。また、定期購読の詳細も掲載しておりますので、ぜひ一読ください。

ホームページ▶



〈SNSアカウント〉

関学スポーツは、リアルタイムでの試合速報や、選手の号外ピラなど、様々な情報をSNSにて発信しています。ぜひフォロー＆チェックのほど、よろしくお願いいたします！



▲Instagram



▲X(旧 Twitter)

◆ 関学スポーツとは ◆

私たち体育会学生本部編集部は体育会の広報機関です。体育会42部49パートの試合に出向き、取材を敢行。紙面やSNSアカウント、公式サイト等にて幅広く広報を行っています。関学スポーツは1961年（昭和36年）4月に創刊され、発刊号数は2025年6月で282号を数えます（途中休刊あり）。